

七条中学校だより5月7号

京都市立七条中学校

令和8年5月14日

発行：校長 林 秀雄

仲間の“新しい一面”に出会う校外学習へ

始業式、入学式から1ヶ月が経ちました。クラスの雰囲気にも少しずつ慣れてきた頃だと思います。そんな5月、いよいよ各学年で校外学習が行われます。1年生は 野外炊飯、2年生は 職場体験、3年生は 修学旅行。学年ごとに目的は違いますが、どの行事にも共通している大切なテーマがあります。

それは、「仲間の新たな一面に気づくこと」そして「自分の新たな一面に挑戦すること」です。

<1年生：野外炊飯 — 力を合わせると見える“仲間の素顔”>

火おこし、調理、片付け。野外炊飯は、普段の生活では経験しないことばかりです。

・火がつかなくてもあきらめず工夫する人・黙々と食材を切り続ける人・周りを見て自然に役割を引き受ける人、等。教室では見えなかった仲間の姿が、きっとたくさん見えてきます。そして、自分自身も「こんなことができたんだ」と気づく瞬間があるはずですよ。

<2年生：職場体験 — 社会の中で見える“責任感と成長”>

職場体験は、社会の一員として行動する貴重な機会です。

・挨拶の大切さ・時間を守ることの重み・相手の立場に立って動くこと、等。

こうした経験を通して、仲間の真剣な表情や、普段とは違う落ち着いた姿に気づくでしょう。そして、自分自身も「任された仕事をやり遂げる」という新しい挑戦に向き合うことになります。

<3年生：修学旅行 — 仲間とつくる“最高の時間と深い学び”>

3年間の集大成となる修学旅行。歴史や文化に触れるだけでなく、仲間との関係が一段と深まる行事です。

・班で意見をまとめる力・時間を守り、行動を調整する力・困ったときに支え合う力、等。

旅先では、仲間の頼もしさや優しさに気づく場面が必ずあります。そして、自分自身も「中学校生活の最後の一年をどう過ごすか」を考えるきっかけになるでしょう。

【どの学年にも共通する“挑戦”という価値】

七条中学校が大切にしているのは、結果よりも過程です。校外学習は、まさにその“過程”がぎゅっと詰まった行事です。・一歩前を出てみる・仲間の良さを見つけて言葉にする・苦手なことにも挑戦してみる、等。

その積み重ねが、皆さんの成長につながります。

校外学習は、ただの「行事」ではありません。仲間を知り、自分を知り、クラスが一つに近づく大切な機会です。皆さんが、仲間の新しい一面に気づき、自分の新しい一面に挑戦する5月になることを期待しています。

進路はこれからの自分を考えること

4月17日、第三学年の生徒および保護者の皆様を対象に進路説明会を実施しました。お忙しい中、多くの保護者の方にもご参加いただきました。説明会では、高等学校の種類や入試制度など具体的な話を中心にお話しましたが、本日はあらためて「進路を考えること」について記述したいと思います。

三年生にとって進路選択は、卒業後の行き先を決めるだけの作業ではありません。それは、「これから自分はどう生きていきたいのか」「どのような自分を目指したいのか」を考える大切な機会です。中学校卒業はゴールではなく、その先の人生へと続く新たなスタート地点だと思います。

進路を考えていくうえで、まず大切にしてほしいことは、自分を知ることです。自分は何に興味があるのか、どんなことをしている時にやりがいを感じるのか。得意なこと、苦手なこと、長所や短所は何か。すぐに明確な考えや正解に辿り着くわけではないし、何が正解なのかもわかりません。悩み、自分自身に問い続けることが、自分の軸をつくっていきます。これまでの学校生活を振り返りながら、これからの自分にとって何がより良い選択なのかを考えてほしいと思います。

次に大切なのは、相手を知ることです。ここでいう相手とは、目指す進路先や将来の目標に至るまでの道筋や様々な情報のことです。それぞれの学校には教育方針や特色があり、学びの内容や求められる力も異なります。その進路先で、どのような学びがあり、自分は何を身につけることができるのか。自分の将来像と結びつけながら、しっかりと調べ、考えることが重要です。

進路について迷い、不安を感じることは決して悪いことではありません。それは、真剣に自分の未来と向き合っている証です。一人で抱え込まず、担任や教職員、そしてご家庭と対話を重ねながら、自分なりの選択を見つけていってください。本校教職員一同、生徒一人ひとりが主体的に進路を選び、自信を持って次の一歩を踏み出せるよう、最後まで寄り添い、サポートしていきます。

この一年が、三年生にとって自分自身を深く知り、未来への道を描く実りある時間となることを願っています。